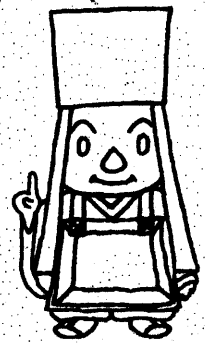


# 足利学校の歴史 用語解説



「足利学校の歴史」を紹介する解説パネルで、難しい言葉（固有名詞や専門用語）が登場します。これらを簡単に説明します。

・**国学** <sup>こくがく</sup> 奈良・平安時代に国ごとに設けられ、<sup>くんじ</sup>郡司や地方豪族子弟のために役人の養成をおこなった学校。これに対して中央には「大学（寮）」がおかれた。

・**鎌倉公方** <sup>かまくらくほう</sup> 室町幕府が東国統治のためにおいた鎌倉府の長官となった足利氏の称。尊氏の子基氏（二代将軍義詮の弟）の子孫が代々受け継いだ。持氏の代で六代将軍義教・関東管領上杉のりざね憲実と衝突（永享の乱）。その後、持氏の遺子成氏が継いだ。拠点をしもうさこが下総古河にもとめた（古河公方）。

・**関東管領** <sup>かんとくかんれい</sup> 鎌倉公方を補佐するための職、鎌倉公方消滅後は、実質的に鎌倉府を運営する。上杉氏の世襲。永禄4年（1561）に上杉謙信が継ぐが、天正7年（1579）謙信の死後、同職は消滅する。

・**孔子** 紀元前552年～479年。中国春秋時代の学者。儒学の祖。魯国の曲阜に生まれる。その教えは「論語」にまとめられている。



・**朱印地** <sup>しゅいんち</sup> 江戸時代、将軍によって年貢・課役を免除された寺社領地と寺社所持地。

・**寄木造** <sup>よせぎつくり</sup> 木彫りで、体に複数の材を寄せて像を造る方法。

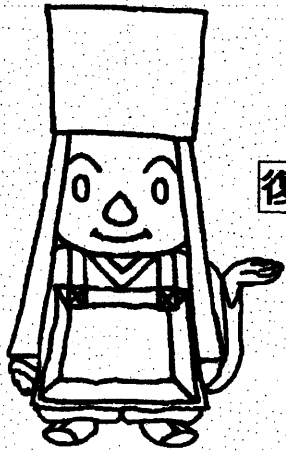
・**庠主** <sup>しょうしゅ</sup> 足利学校の校長

・**易学** <sup>えきがく</sup> 占いのこと。筮竹をかぞえて算木を置いて占う占トをいい、あらゆる現象を表徴する記号として **—**（陽爻）（陰爻）**■ ■** が使われ、これを組み合わせて表している。これに対して亀甲を灼いてうらなう亀トや式盤を回転して占うことを式占という。

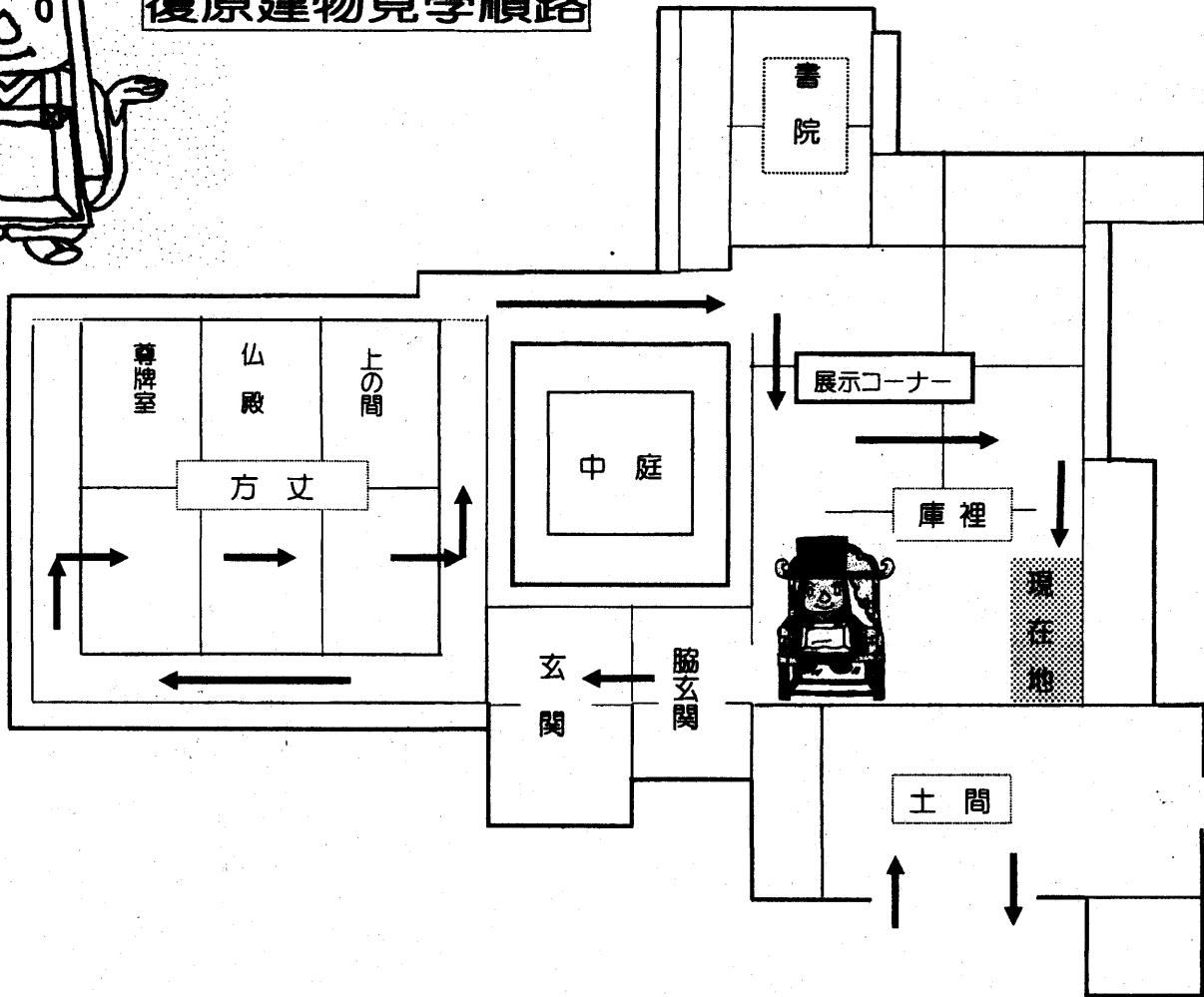
・**儒学** <sup>じゅがく</sup> 孔子にはじまり、仁・義・礼・智や楽を重んじる中国古来の政治・道徳の学。

・**年筮** <sup>ねんせい</sup> その年の占い。足利学校では、庠主がその年の将軍の吉凶を占って献上した。

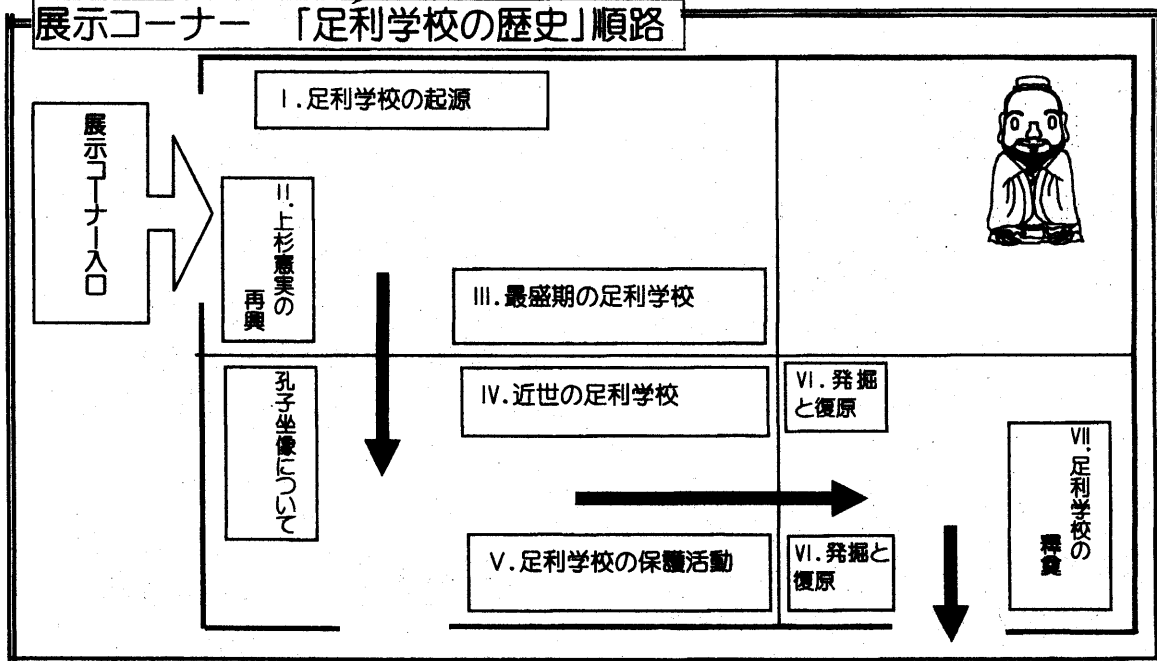
・**寺社奉行** <sup>じしやぶぎょう</sup> 江戸幕府の職制の一つで、寺社とその領地を管理し、寺社関係の人事・訴訟をあつかった。



復原建物見学順路



展示コーナー「足利学校の歴史」順路





素朴な疑問にお答えします！

## 足利学校 Q&A

**Q1 先生、学生はどんな人たちだったのですか？**

学生は全国から集まり、中には沖縄出身の人もいたという記録があります。学生の大半は、僧侶（お坊さん）でしたが、僧侶以外の俗人には僧侶の学徒名がつけられました。

庫主（校長先生）には、当時の学問のトップレベルにあった学問僧が任命されていました。例えば、初代庫主は鎌倉五山派の僧快元で易学の権威でした。

**Q2 校則はあったのですか？**

室町時代に足利学校を中興した上杉憲実が定めた「学規三条」が校則にあたります。これには「足利学校で学ぶべき学問の内容や規則を守らない学生の在学を許さない」「就学に不熱心な学生の在学を許さない」「学生は入学に際して僧侶の身分となる」と定められています。

**Q3 学費はいくらぐらいだったのですか？**

学生が学費を払ったという記録はなく、逆に学校側が食事と宿舎を提供していたという記録があります。

**Q4 授業の内容や、時間割はどうなっていたのですか？**

孔子の教えに基づく「儒学」を中心に学んでいました。創設以来、易学（占い）を重視し、戦国期には、兵学（兵法戦略）も学びました。現在のような時間割はなく、自学自習が基本で、主に、中国の古い本を教科書とし、それを書き写して学生は学んでいました。

**Q5 何年在学して卒業したのですか？**

現在のように何年制と定められてなく、自学自習だったので自分の学びたい学問が終わったら生徒は帰って行きました。ですから、長い人では10年以上、短い人では1日の在学だったようです。自分自身で納得するまで学んだら“卒業”したのです。

史跡足利学校事務所

〒326-0813 足利市昌平町 2338 電話：0284-41-2655

# 宥座之器について

これは宥座之器ゆうざのきと言います。

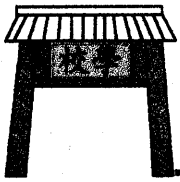
空からの時は傾かたむき、水をほどほどに入れると  
起きてきます。また、いっぱいに入れると  
ひっくり返ります。

『論語』で有名な孔子は、

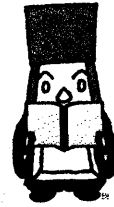
「満みちて覆くつがえらないものはない」と  
弟子たちに教えました。

中庸ちゅうようの教え。

史跡足利学校



## 足利学校で学んだ主な人々



### 田代三喜 (1465~1544)

室町時代の医学者。曲直瀬道三の師。名は導道、諱は三喜、字は祖範、号は範翁など。武蔵国越生生まれ。医師を志し臨濟宗京都妙心寺で修行の後、足利学校で学ぶ。長享元年(1487)23歳で明へ渡り医学を学び、明応7年(1498)35歳で帰国。帰国後鎌倉から足利に移り住み、その後足利成氏の招きで下総古河へ行き古河公方の侍医として医療を行う。著書に『三喜範翁医書』などがある。天文13年(1544)73歳没(79歳説もある)。《参考文献》『鎌倉室町時代の儒教』

### 曲直瀬道三 (1507~1594)

安土桃山時代の医師。名は正盛(正慶)、字は一溪、号は羅知善斎、のちに勅命によって翠竹斎と改める。京都柳原生まれ。享禄元年(1528)22歳のときに足利学校に入り、第6世庫主文伯に師事。享禄4年(1531)に田代三喜に会い、入門する。天文14年(1545)に京都に帰り、翌年足利義輝に謁し寵遇を受け、医学舎啓迪院を創建する。著書には、毛利元就の治療を記録した『雲陣夜話』や『啓迪集』など数多くある。《参考文献》『寛政重修諸家譜』

### 九華 (1500~1578)

名は玉崗、諱は瑞瑛、号は九華(足利学校での学徒名)。大隅国生まれ。俗姓は伊集院氏(島津氏の一支部)。京都の東福寺に入山して禅を学び、天文7年(1538)長楽寺の賢甫と共に足利学校に帰る。天文19年(1550)文伯を継いで第7世庫主となる。永禄3年(1560)庫主を辞することを決め郷里へ帰省する途中、小田原を通った際に北条氏康・氏政父子に謁見を行うと、2人は九華に金沢文庫蔵本『文選』を与えて、足利学校再任を要請し天正6年(1578)足利にて入寂するまで再度庫主を務めた。九華が庫主をしていた頃が足利学校の最盛期で、「宇降松」の伝説はこの頃のものである。

《参考文献》『註解 寒松稿 草稿四・五』

### 三要 (1548~1612)

名は開室、諱は元信、三要と号し、世人は信長老と称した。肥前小城郡生まれ。足利学校にて第7世庫主九華に師事。天正14年(1586)第9世庫主となる。天正18年(1590)豊臣秀吉が小田原を攻略して北条氏が亡び、翌19年(1591)秀次に謁し足利学校の書籍等は京都へ運ばれた。その後秀次が高野山で自害、徳川家康が書籍等を学校に返還した。その縁で家康側近となり、初期徳川幕府の体制作りに寄与。特に寺社の取締り、外交文書作成、出版事業等を行い、伏見版(木活字版)と駿河版(銅活字版)というわが国初の活字本印刷も行った。《参考文献》『註解 寒松稿 草稿三』

### 寒松 (1550~1636)

名は龍派、諱は禅珠、寒松と号す。武蔵野国生まれ。天正元年(1573)25歳の時から足利学校で学ぶ。九華の没後、足利を去り天正10年(1582)建長寺末長徳寺(現川口市大字芝)の第12世住持となる。天正18年(1590)北条氏滅亡の時、岩槻城内にあり九死に一生をえる。慶長7年(1602)家康の命により三要の後を継ぎ10世庫主に就任、長徳寺と足利学校を兼務した。「寒松日記」によれば、寒松はほとんど毎日長徳寺と足利学校の間を往復した。慶長11年(1606)8月、講堂修築完成、その傍に客殿を再興、薬師如来を安座した。《参考文献》『訓譯 寒松日曆』

### 天海 ( ? ~1643)

安土桃山・江戸時代前期の天台宗の僧。勅諡号は慈眼大師。陸奥国高田生まれ。永禄元年(1560)から4年間足利学校にて第7世庫主九華に師事。出家して隨風と称し、比叡山・圓城寺・興福寺などで修学。天正17年(1589)駿府で徳川家康に謁して、武蔵国川越の喜多院住持、日光山貫主となる。家康の信厚く、死去に際しては葬儀の導師をつとめ日光山を再興。寛永2年(1625)上野寛永寺を創建。秀忠・家光を補佐して幕政にも参与。墓所は輪王寺慈眼堂廟堂。

《参考文献》『史跡足利学校 研究紀要「学校」第2号』

### 瀧轡祖博 (生没年不詳)

法号は瀧轡、法諱は祖博、京都生まれ。足利学校で学んだ後、上杉家家老の直江兼続(1560-1619)に軍師として招かれ、文禄の役の際には直江兼続に従い朝鮮へ渡海した。また、瀧轡書院と号し医書や漢籍の刊行にあたった。

《参考文献》『史跡足利学校 研究紀要「学校」第2号』

# 足利学校を訪れた主な人々

(永正~大正まで)

来校年	西暦	来校者名	備考	来校年	西暦	来校者名	備考	来校年	西暦	来校者名	備考
永正 6年	1509	ソウ チョウ 宗長	1448~1532 連歌師	明治 14年	1881	ホソカワ ジュンゾウ 細川潤次郎	1834~1923 法制学者	明治 43年	1910	ネヅ カイチロウ 根津嘉一郎	1860~1940 実業家
寛永 13年	1636	トクガワ ヨシナオ 徳川義直	1600~1650 尾張藩主	"	"	アオヤマ エンジュ 青山延寿	1820~1906 儒学者	"	"	ヤマモト タツオ 山本達雄	1856~1947 実業家
"	"	ホリ キョウアン 堀 杏庵	1585~1642 儒学者	" 15年	1882	サノ ツネタミ 佐野常民	1822~1902 元老院院長	"	"	オカノ ケイジロウ 岡野敬次郎	1865~1925 法学者
慶安 4年	1651	ヒトミボクウケン 人見卜幽軒	1599~1670 儒学者	"	"	シゲノ ヤスツグ 重野安禪	1827~1910 漢学者	"	"	エンドウ リュウキチ 遠藤隆吉	1874~1946 社会学者
承応 2年	1653	ハヤシ ラザン 林 羅山	1583~1657 儒学者	" 16年	1883	セキグチ タカヨシ 関口隆吉	1836~1889 静岡県知事	" 44年	1911	タヅリ イナジロウ 田尻稻次郎	1850~1923 経済学者
"	"	ハヤシ ドッコウサイ 林 読耕斎	1624~1661 儒学者	" 19年	1886	ワタナベ コウキ 渡辺洪基	1848~1901 東京帝国大学総長	"	"	コヤマギ シキタ 小柳司気太	1870~1940 中国学者
"	"	ヒトミ チクドウ 人見竹洞	1638~1696 儒学者	" 20年	1887	タカタ サナエ 高田早苗	1860~1938 教育者	"	"	クキ リュウイチ 九鬼隆一	1852~1931 美術評論家
享保 7年	1722	ヤマノイ コンロン 山井崑崙	1690~1728 儒学者	" 30年	1897	コノエ アツマロ 近衛篤麿	1863~1904 政治家	"	"	カワハタ キョクシヨウ 川端玉章	1842~1913 日本画家
" 17年	1732	ダザイ シュンダイ 太宰春台	1680~1747 儒学者	" 35年	1902	タナカ イナギ 田中稻城	1856~1925 上野帝国大学総長	"	"	イノウエ テツジロウ 井上哲次郎	1855~1944 哲学者
寛延 3年	1750	ネモト フイ 根本武夷	1699~1764 儒学者	"	"	タナカ ヨシナリ 田中義成	1860~1919 歴史学者	" 45年	1912	オオモリ シュウイチ 大森鐘一	1856~1927 松本義典同僚
安永 5年	1776	ネギシ ヤスモリ 根岸鎮衛	1737~1815 随筆家	"	"	ツジ センノスケ 辻 善之助	1877~1955 歴史学者	"	"	ノギ マレスケ 乃木希典	1849~1912 陸軍大将
寛政 5年	1793	マツカワ トウザン 松川東山	1743~1794 儒学者	" 36年	1903	オノエ サイシュウ 尾上柴舟	1876~1957 歌人	"	"	カトウ ヒロユキ 加藤弘之	1836~1916 東京帝国大学総長
"	"	ガモウ クンペイ 蒲生君平	1768~1813 幕王家	" 37年	1904	シンムラ イズル 新村 出	1876~1967 言語学者	"	"	ウノ テツト 宇野哲人	1875~1974 中国哲学者
" 8年	1796	タニブン チョウ 谷 文晁	1763~1840 画家	"	"	ウエダ カズトシ 上田萬年	1867~1937 言語学者	大正 2年	1913	カノウ ジゴロウ 嘉納治五郎	1860~1938 教育者、長
" 12年	1800	カツラガワ チュウリョウ 桂川中良	1754~1808 蘭学者	"	"	ホシナ コウイチ 保科孝一	1872~1955 東京帝国大学教授	" 3年	1914	ハットリ ウノキチ 服部宇之吉	1867~1939 中国哲学者
文化 6年	1809	カメダ ホウサイ 亀田鵬斎	1752~1826 儒学者	" 39年	1906	トウゴウ ヘイヂロウ 東郷平八郎	1847~1934 海軍軍人	"	"	クロイタ カツミ 黑板勝美	1874~1946 歴史学者
" 13年	1816	カリヤ エキサイ 狩谷楨斎	1775~1835 国学者	"	"	カミムラ ヒコジロウ 上村彦之丞	1849~1916 海軍軍人	" 4年	1915	ニトベ イナゾウ 新渡戸稻造	1862~1933 教育家
"	"	コンドウ セイサイ 近藤正斎	1771~1829 幕府の書物奉行	"	"	イトウ スケユキ 伊東祐亨	1843~1914 海軍軍人	" 5年	1916	ヨシダ セイチ 吉田静致	1872~1945 倫理学者
"	"	イチノ メイアン 市野迷庵	1765~1826 儒学者	" 41年	1908	ヤマジ アイザン 山路愛山	1864~1917 史論家	" 8年	1919	オオマチ ケイゴウ 大町桂月	1869~1925 詩人
文政 12年	1829	タチハラ キョウシヨ 立原杏所	1785~1840 画家	"	"	オオクマ シンゴ 大隈重信	1838~1922 政治家	" 9年	1920	ヨシダ クマジ 吉田熊次	1874~1964 教育学者
天保 元年	1830	チバ ヒサタネ 千葉久胤	?~? 歌人	"	"	トクトミ ソホウ 徳富蘇峰	1863~1957 評論家	" 10年	1921	シモダ ウタコ 下田歌子	1854~1936 教育家
" 2年	1831	ワタナベ カザン 渡辺華山	1793~1841 画家	"	"	イチシマ ケンキチ 市島謙吉	1860~1944 著述家	"	"	ソエダ ジュイチ 添田寿一	1864~1929 経済学者
" 4年	1833	オオクボ シツブ 大窪詩仏	1767~1837 漢学者	"	"	ヨシダ トウゴ 吉田東伍	1864~1918 歴史、地理学者	"	"	クラキ ダンヨク 桑木殿翼	1874~1946 哲学者
" 6年	1835	ヤナガワ セイガン 梁川星巖	1789~1858 漢学者	" 42年	1909	イチムラ サンジロウ 市村瓊次郎	1864~1947 東洋史学者	" 12年	1923	コボリ トモト 小堀柄音	1864~1931 日本画家
"	"	ヤナガワ コウラン 梁川紅蘭	1804~1879 漢学者	"	"	サカタニ ヨシオ 阪谷芳郎	1863~1941 政治家	" 13年	1924	カトウ タカアキ 加藤高明	1860~1926 政治家
" 11年	1840	サンテイ シュンバ 三亭春馬	? ~1851 戯作者	"	"	オオウラ カネタケ 大浦兼武	1850~1918 政治家	"	"	ヤスイ コタロウ 安井小太郎	1858~1938 漢学者
" 14年	1843	ヒロセ キョクソウ 広瀬旭荘	1807~1863 儒学者	"	"	オカダ リョウヘイ 岡田良平	1864~1934 京都帝国大学総長	"	"	アシカガ エンジュツ 足利衍述	1878~1930 儒学研究者
嘉永 元年	1848	サトウ イッサイ 佐藤一斎	1772~1859 漢学者	"	"	ツボヤ センシロウ 坪谷善四郎	1862~1949 出版人	" 14年	1925	ササガワ リンブツ 笹川臨風	1870~1949 評論家
" 5年	1852	ヨシダ ショウイン 吉田松陰	1830~1859 幕末の志士	" 43年	1910	シブサワ エイイチ 渋沢栄一	1840~1931 実業家	"	"	ゴトウ シュウイチ 後藤守一	1880~1960 考古学者
万延 元年	1860	タカスギシンサク 高杉晋作	1839~1867 幕末の志士	"	"	クロダ セイキ 黒田 清輝	1866~1924 洋画家	"	"	ハマダ コウサク 浜田耕作	1881~1938 考古学者
明治 14年	1881	ナイトウ メイセツ 内藤鳴雪	1847~1926 俳人	"	"	イノウエ カオル 井上 馨	1835~1915 政治家	須永弘編『足利学校年譜』等より作成			